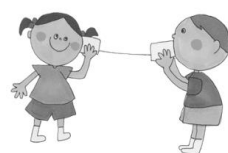


いと 系でんわ



「オークションで好きな物をゲットしよう」

先日の人権学習では、経済格差の背景にある、見えにくくて、みんなが気づきにくい制度や考え方が社会にあることを考えました。授業の中で、クラス全員がオークションで好きな商品を競り落として、経済格差の疑似体験をしました。オークションは、予め5,000円と15,000円と金額に差をつけられていることを知らず、好きな商品を落札しようとしてと、次々と手が上がり「1,000円！」「2,000円！」を盛り上がりました。

しかし、初めに渡された金額以上の金額で、落札する友だちがいて、「えっ！なんで！」という疑問がポツポツ出ました。それが、度々つづくと、自然と教室に「おかしくない？」「なんで、そんなにお金をもっているのん！」「不公平やん！」と不満の声が出始めました。経済格差を疑似体験した瞬間でした。

オークションが終わり、種明かしと同時に授業のねらいを説明すると、楽しい雰囲気が一変し、「平等・不平等」について真剣に考え始めました。社会にある様々な格差について、そして、その一つの例として男女に賃金格差があることを知り、「これって、能力とか努力とかに関係がなくて、おかしくない！？」という自然な疑問が浮かび上がりました。



〔1組〕 やっぱり、持っているお金が少ないと多い人に勝てなくて、私も何も買えなかったので、決まった価格で売られている方がいいなと改めて思いました。私は男女格差がある理由は、男性より女性の方が弱いなどのイメージがあったり、女性は出産する時に育児をとったりするからじゃないかと思いました。この理由から会社は安定した人が欲しいという要望をかなえられないから、格差が生まれているんだと思いました。

〔2組〕 授業でオークションをやったけど、15,000円はそんなに高くないと思っていました。なぜかという、自分も15,000円をもっていたからです。オークションをやっていくうちに、高いのだとわかりました。それと同じようにだれかは普通のことだと思うけど、だれ

かは普通のことじゃないことが社会でも起こっているのは、大変なことだなと思いました。だから、男女関係なく、社会で生きていくために、まずは男女のイメージを変えていかないとけないのかなと思いました。

〔3組〕 この世界には、スタートラインが違うかったり、生活できなかったり、差別があったりすることがわかった。頑張っても何も得られなかったり、頑張らなかったのに何かを得たりすることがあることを知り、そんな社会の不平等や差別がこれからなくなってほしいと思いました。実際、小学校から道徳で差別について学んできて、今回、差別って本当に嫌だなと思った。もし、学校に差別があるのなら、それもなくって欲しいです。

〔4組〕 オークションの体験をして思ったことは、人間には格差があると知って、僕は「おかしいやん」と思いました。下の図を見て、思ったことは他にとって日本は少ないけど、外国はすごい格差があるんだと思いました。オークションをして、本物のオークションを生で見たいと思った。女と男で地位があると思ったけど、女の人が赤ちゃんを育てるのではなく、男の人でもできるとあって、僕も結婚して子どもができれば、僕も子どもを育てようと思った。

〔5組 川端さん〕 同じ努力をしても、男女で金額に大きな差がしょうじるのは不平等だと思った。また、お金だけではなく、日常でも男性は仕事、女性は家事のような偏見などで、女性は生活しづらくなっていると思ったので、男女の格差はなくしていかなければならない課題だと思った。そのために、一人ひとりが男女差別について考え、意識するべきだと思った。

〔6組〕 男女ではできる仕事や内容が違うから、少しは差が出ると思うけれど、それ以上に昔から女の方は働かない考えの影響があると思った。産まれた国や身分によっても差別はあると思った。まだ、大分男女の差があるけれど、昔よりかはマシになっていると思う。

〔7組〕 オークションを通じて、スタートラインが違っていると、ここまで差が出るんだなと思いました。男女の収入の差だけではなく、女性専用車があるのに、男性専用車はないなど性別だけで不平等が生まれてしまうのは、少し嫌だなと感じました。これからの日本が少しでもジェンダー平等化を進めていけるといいです。

～『見えるとかみえないとか』 ヨシタケシンスケ～

「ぼく」は宇宙飛行士。いろんな星を調査するのが仕事です。ある星で出会ったのは、前にも後ろにも目がある宇宙人。「ぼく」が後ろを見えないことを知ると困るに思っ、ものすごく気を使ってくれるので変な気持ちになってしまいます。

この星では前も後ろも見えるのが当たり前なのですが、生まれつき後ろが見えない宇宙人もいて、「ぼく」と同じなので、すごく話が盛り上がります。

地球では後ろが見えないのが当たり前ですが、他の星には他の星の「当たり前」があるのです。例えば、足が長いのが当たり前、空を飛べるのが当たり前、体が柔らかいのが当たり前、他にも・・・。

1 組

はじめに「自分が普通だと思っていること」を考えたとき、あまり出てこなかったけど、他の人の意見を聞いた時「えっ、それ普通なの!？」ということがたくさんあって、すごく驚いた。「見えるとか見えないとか」を読んで、普通というのは、人それぞれが違っていることがよくわかった。自分もっていないものをもっている人とはなしたりすると、いろんな発見ができるから、たくさんの人と話して、お互いの同じ所、違う所を「面白いな」と思える人でありたい。

2 組

普通とは、平均ということなのかなと思った。ほとんどが右利きだから、普通は右利きだとなっていると思う。みんなの平均によって勝手に決めつけられ、右利きにとっては生きやすい世の中になっているのはおかしいと思う。例えば、駅の改札など、右でしか入れないようになっているけど、両方いれるようにしたりとか、ちょっと工夫が世の中には必要なんじゃないかと思う。

3 組

自分にはないこと、ないところ。違いがあって、「当たり前だと思う」。見えなくても、見える景色がある。矛盾しているかもしれないけれど、見える人にとって見える景色は変わらないと思う。見えない人にとっては、毎日が違う景色で、毎日違う感情をもっている。見えることが「フツー」でも、見えない人にとっては、それが普通だから、「みんなと違うから恥ずかしい」じゃなくて、「みんなと違うから、そこが良い」と思いながら、生活していけたらいいなと思った。

4 組

「見えるとか見えないとか」に「分からないことが怖い」という言葉があって、それは確かに世界もそうだなと思った。宗教の違いから起きる戦争は、自分たちはそれが普通だと思っている宗教も相手から見たら変になり、怖くなる。そして、戦争が起こるのだと思う。そのためにも、「普通じゃないからおかしい」とならず「普通はない」と思うようになるのが、いいんじゃないかなと思った。

5 組

人それぞれに普通があるし、その普通が一部の人にとっては、普通じゃなくても、もう一部の人にとっては普通だし、この世の中に全員にとっての普通などないのだと考えた。また、この人にとっての普通とは個性だと言い換えができる、つまり「個性を尊重しない」というのは、あなたは普通じゃないといっているのと同じだと思った。でも、世の中には一人ひとりの個性がある。それは一人ひとりに普通があるということだ。一人ひとりに普通があるんだから、世の中に普通なんかいないと思う。

6 組

1人1人違う普通があるんだなと思いました。足、手が長い人がいたり、短い人がいたり、スポーツが好きな人がいたり、嫌いな人がいたり、人それぞれの普通があるから、日常で友だち、家族と喧嘩したりするんだなと思いました。他人の普通をバカにしたり、否定したりするのは、絶対にしたらダメだなと改めて思いました。

7 組

今日の授業でわかったことは、人は別に「フツー」じゃなくてもいいんだなとわかりました。私は前までずっと「フツー」になりたいなと思っていたけれど、今では、人と違っていてもいいんだと気づきました。私もこれから、人とちがう所や同じ共通点を見つけていきたいです。

